

農業委員会だより



第53号 R7.12発行

編集発行

与謝野町農業委員会
広報編集委員会

〒629-2498

与謝郡与謝野町字加悦433番地
(加悦庁舎2階)

TEL : 0772 - 43 - 9023 (直通)



丁寧に吊るされるころ柿



ふわふわのお餅にたっぷりあんこ

【目次】

与謝ころ柿	2
岩滝名物「てっぽう」	2
ドローンによる共同防除・種もみの直播	3
農林水産業功労者表彰	3
農業委員・農地利用最適化推進委員の活動	3
「与謝・滝・金屋 命の里」秋の大感謝祭	4
編集後記	4

与謝ころ柿

与謝のころ柿はお正月には三方に米を敷き、上に橙を中心に一家の人数分のころ柿を並べ、元旦の朝食べる縁起物の年取り干し柿で、水分が約50%であんぽ柿、約30%がころ柿となり、過去には京阪神にも出荷していました。去年は高温の影響か柿が実りませんでした、今年は成り年で多くの実がつき、11月初旬から家の軒先には、皮がむかれた柿がきれいに並んで干されています。

皮をむいてから約8週間で干し柿が完成となります。柿が赤くなると医者が青くなると言われるほど栄養面が優れた食べ物ですが、糖質の取りすぎや下痢や便秘を引き起こしやすくなると言われています。与謝のころ柿は、おやつにそのまま食べるのもよし、なますに加えたりするのもよしで、干し柿の王様と呼ばれる堂上蜂屋柿に引けをとりません。柿の味を十分に堪能しましょう。



ころ柿

岩滝名物「てっぼう」



てっぼう

岩滝地域には、「てっぼう」と呼ばれる独特のおにぎりが伝わっています。昭和後期まで、この地域では自宅で葬儀が営まれる際、隣組が総出で協力し合って執り行うのが習わしでした。その際、多くの人々に手早く食事を振る舞うために考え出されたのが、この「てっぼう」です。その名の由来には興味深い言い伝えがあります。鉄砲の玉は一度発射されると手元には戻らないことから、故人の霊が戻らないようにとの願いを込めて「てっぼう」と名付けられたとも言われています。

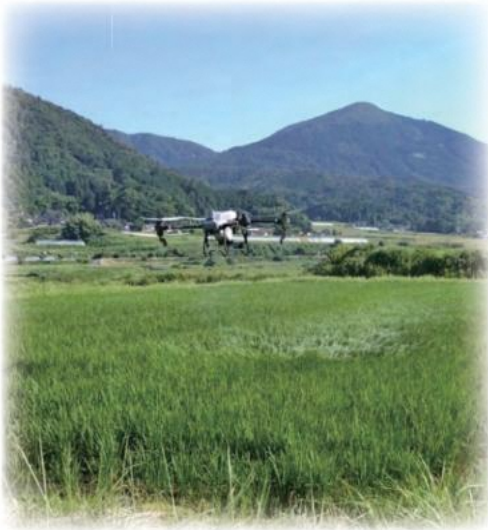
現在では、長寿会のイベントなどで調理される程度となりましたが、特定のレシピはなく、先人から口伝で受け継がれた方法で作られています。食べた方からは「懐かしい味がする」との声が聞かれ、今でも地元の居酒屋では、常連のお客さんから要望があれば締めの一品として提供されることもあるそうです。地域の食文化を次世代へ継承していくためにも、皆さんも一度、この「てっぼう」作りに挑戦してみてもいいかもしれません。

作り方

材料・米一升(1.5kg)・濃口醤油(180cc)・すりごま(30g)・しょうが(30g)

1. しょうがの準備：しょうが30gをすりおろすか、細かく刻む
2. 調味料を混ぜる：濃口醤油180ccとすりおろしたしょうが、すりごま30gをよく混ぜ合わせる
3. ごはんと合わせる：炊きたてのごはん(一升分)に混ぜ込む

ドローンによる共同防除・種もみの直播



ドローンによる作業風景

与謝野町の農業従事者は、年々高齢化が進み、与謝・滝・金屋地区ではスマート農業の取組として、今年はドローンを活用して田植えと共同防除を実施されました。田植えは、田植機で苗を植えるのではなく、ドローンを使用して直接、種もみを撒く直播を実施されました。反あたり1分もかからず終了されたそうです。共同防除では、カメムシ防除を夏に実施され、2日間で終了されたそうです。ドローンの活用は、作業効率アップや疲労軽減等のメリットは多々ありますが、天気の影響が大きく、種もみの撒きむらや米の収量が少ない等の課題も多くあったようです。今後は除草剤散布等の活用を含めて、試行錯誤しながら進めていかれます。

農林水産業功労者表彰

11月29日に京都府総合見本市会館で開催された京都府農林水産業功労者表彰の授与式において、山口徳松さん（四辻）が農林水産業功労者として表彰されました。山口さんは、水稻、酒米、豆類、野菜類など多品目を栽培する大規模農家として、長年にわたり地域農業を支えてこられました。早くから農業機械の導入を進め、効率的な経営を実践される一方で、減農薬栽培にも積極的に取り組み、安心安全な農産物の生産と適切な農地管理に努めてこられました。また、地元の農業用施設維持管理組合長などを長年務められ、地域農業者の取りまとめや農業振興の推進にご尽力されてきました。山口さんのリーダーシップと献身的な活動は、地域農業の発展に大きく貢献するものとして、今回の受賞につながりました。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



山口徳松さん

農業委員・農地利用最適化推進委員の活動

8月から11月にかけて農業委員と農地利用最適化推進委員による農地利用状況調査が実施されました。この調査は、地域の農地利用の確認、遊休農地の実態把握と発生防止・解消、違反転用の発生防止を目的として毎年実施しているものです。また、11月25日と26日には農地パトロールを実施し、前年の農業委員会総会で審議された許可案件について、適正に利用されているか、また工事の進捗状況などの現地確認をされました。

これらの調査・パトロール活動を通じて、地域の貴重な農地が適正に保全・利用されるよう今後も継続的に取り組みが実施されます。



農地パトロールのようす

「与謝・滝・金屋 命の里」秋の大感謝祭

11月9日(日)、道の駅シルクのまちかやにおいて「秋の大感謝祭」が開催されました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、会場には多くの来場者が訪れ、賑わいを見せました。ステージでは宮津天橋高校の合唱部や吹奏楽部による演奏のほか、バンドのライブパフォーマンスが繰り広げら



来賓による千本搗き



大抽選会

れ、会場を盛り上げました。また、恒例のりんごの皮むき競争では、参加者が腕を競い合い、見事優勝を果たした方には豪華な商品が贈られました。イベントのフィナーレを飾る毎年大人気の大抽選会では30kgの米を見事当選された女性の方が、その場で自力で持ち帰られる姿が印象的でした。

農業者年金に加入しませんか

加入すればこんなメリットが！

MERIT 1

積立方式で安心

「将来ちゃんと年金がもらえるの？」と心配な方も安心。農業者年金は、自分で積み立てた保険料と、その運用益によって将来受け取る年金額が決まる「積立方式(確定拠出型)」。



MERIT 2

一生涯にわたり受け取れる

農業者年金は、65歳から支給され、一生涯にわたり受け取ることができる終身年金。もし80歳前に死亡した場合、80歳まで受け取るはずだった年金相当額が死亡一時金として遺族に支払われます。



MERIT 3

自由に保険料を設定

保険料は、月額2万円から、千円単位で最高6万7千円まで自由に選択でき、随時変更が可能です。



MERIT 4

節税効果が大い

納めた保険料は、全額社会保険料控除になり、所得税・住民税の節税につながります。運用益も非課税です。さらに、将来受け取る農業者年金にも、公的年金等控除が適用されます。



農業者年金は、農業に従事する方のための公的年金制度です。国民年金に上乘せして、将来の備えを充実させることができます。支払った保険料は全額が社会保険料控除の対象となるため、節税効果や生涯にわたって年金が受け取れる終身年金です。老後の安心につながります。農業を続けながら、将来の安心を築きませんか？

編集後記



今年の夏は記録的な暑さが続き、雨の少ない日が続きました。与謝野町の田んぼや畑でも水管理に苦労された方が多く、お米や野菜の生育にも大きく影響が出た一年でした。厳しい状況の中でも、毎日作業を続ける農家さんの姿に改めて農業の大切さと力強さを感じました。天候の変化には戸惑うこともありですが、知恵を出し合い工夫を重ねながら、きつとこれから前向きに農業を続けて行けると信じています。

来年は天候に恵まれ、笑顔の多い一年になりますように。どうぞ皆さま、良いお年をお迎えください。
(木村有紀子 委員)

広報編集委員

広報編集委員

間苧谷義人 委員長
谷原 光昭 副委員長
成毛 義信 委員
本城 智鶴 委員
木村有紀子 委員
小田 則子 委員